

2020年 経済構造実態調査 乙調査票の記入のしかた



音声情報制作業

経済構造実態調査について

総務省・経済産業省では、既存の統計調査の統合・再編により、GDPの約9割を占める経済活動を年次で把握する新たな基幹統計調査として、経済構造実態調査を2019年に創設しました。

本調査は、製造業及びサービス産業の付加価値等の構造を明らかにし、国民経済計算(特にGDP)の精度向上等に資することを目的としています。

回答方法

調査票は、インターネット又は郵送によりご回答ください。インターネットでの回答については、同封の「オンライン調査利用ガイド」をご覧ください。

調査票の記入にあたっての留意事項

- この調査(経済構造実態調査 乙調査票(音声情報制作業))は、企業単位の調査です。したがって子会社など連結する他の企業分は含みません。
- この乙調査票とあわせて、甲調査票もお届けしている場合があります。甲調査票も届いた場合は、両方の調査票についてご回答ください。本冊子は「乙調査票の記入のしかた」ですので、甲調査票については、「甲調査票の記入のしかた」をご覧ください。
- 乙調査票の記入に際し不明な点などありましたら、本冊子の裏面の「コールセンターのご案内」に記載されている連絡先まで、ご連絡ください。

記入上の 注意点

- 黒又は青のボールペンなどで、はっきり記入してください(摩擦熱でインクが消えるボールペンは使用しないでください)。
- 内容を訂正する場合は、二重線で消し、正しい内容を記入してください。
- 金額欄は、1万円未満を四捨五入し、万円単位で記入してください。5千円以上1万円未満の場合は「1」万円、5千円未満の場合は「0」万円と記入してください。また、「¥」記号は付けないでください。
- 調査票の記入内容について、後日おたずねさせていただく場合があります。

目次

調査の対象となる企業	1	4 消費税の税込み記入・税抜き記入の別	3
廃業、休業等に係る扱い	1	5 年間売上高等	5
1 企業の名称・所在地等	2	6 年間営業用固定資産取得額	8
2 経営組織及び資本金額	3	7 従業者数	10
3 企業の事業形態	3		

調査の対象となる企業

この調査(経済構造実態調査 乙調査票(音声情報制作業))の対象となる企業は、日本標準産業分類の小分類412-音声情報制作業に属する業務を主たる業務(売上高が最も大きい業務)として営む企業(個人事業主を含む。)です。

主たる業務として音楽、音声コンテンツの制作を行っている企業を調査の対象としており、レコード(音楽CD、音楽テープなどのこと)の企画・制作、レコード以外の音声情報(映画用、テレビ番組用、CM用、ゲームミュージック、音声アナウンスなど)の企画・制作、ラジオ番組の制作を行う企業が調査の対象となります。

具体的に「対象となる業務」「対象とならない業務」は5ページをご覧ください。

なお、「対象とならない業務」を主たる業務として営む企業は、本調査の対象となりませんので、現在の主たる業務の内容を具体的に備考欄に記入の上、調査票を返送してください。

廃業、休業等に係る扱い

貴企業が廃業、休業した場合など、事業活動に著しい変化があった場合は、その発生時期等を含め備考欄に記入してください。なお、備考欄に書ききれない場合は、調査票の裏面に記入してください。

※日本標準産業分類

統計の正確性と客観性を保持し、統計の相互比較性と利用の向上を図ることを目的として設定された統計基準であり、事業所において行われるすべての経済活動を大分類、中分類、小分類、細分類の4段階に分類しています。

詳細は総務省のホームページをご覧ください。

日本標準産業分類 検索

https://www.soumu.go.jp/toukei_toukatsu/index/seido/sangyo/H25index.htm

はじめに

記入欄にあらかじめ印字されている場合は、印字されている内容に変更がないかを確認し、内容に変更がある場合は、二重線で消して修正してください。

1 企業の名称・所在地等

ア 企業の名称	フリガナ										
イ 企業の所在地	郵便番号								都道府県・市区町村名	町丁・字・番地・号	
	ビル・マンション名等 (階、号室まで記入してください)									電話番号	() -
ウ 企業の法人番号											法人番号が指定されていない場合は、右の□に「レ」印を記入してください。 <input type="checkbox"/>

2 経営組織及び資本金額

エ 経営組織	あてはまるものを○で囲んでください。							
	① 会社 ② 会社以外の法人・団体 ③ 個人経営							
オ 資本金額 (又は出資金額)	千億	百億	十億	億	千万	百万	十万	万円

3 企業の事業形態

カ	主としているものを一つ○で囲んでください。
	① レコード制作業
	② 音楽出版業務
	③ ラジオ番組制作業
	④ その他

4 消費税の税込み記入・税抜き記入の別

キ	5 欄以降の金額欄を記入するにあたっての消費税の取扱いについて選択の上、該当する番号を○で囲んでください。 ※できる限り「① 税込み」を選択してください。	① 税込み ② 税抜き
---	--	----------------

1 企業の名称・所在地等

ア 企業の名称

- 名称は、略称ではなく正式名称(法人の場合は登記上の名称)を記入してください。法人の名称には、法人の種類も記入しますが、以下の()書きのように省略しても差し支えありません。

例	株式会社 → (株)	合資会社 → (資)	一般社団法人 → (一般社)
	有限会社 → (有)	公益社団法人 → (公益社)	一般財団法人 → (一般財)
	合名会社 → (名)	公益財団法人 → (公益財)	合同会社 → (同)

イ 企業の所在地

- 登記上の所在地ではなく、実際に事業を行っている所在地を記入してください。

例 ○ 若松町3丁目2番1号 ○ 若松町3丁目2-1

- 事業所固有の郵便番号をもっている場合は、その郵便番号を記入してください。
- ビルなどの中にある事業所の場合は、そのビルの名称と入居している階(マンションの場合は、号室まで)を記入してください。
- 他の事業所の構内にある場合は、「○○構内」(○○は入居先の法人名と事業所名)と記入してください。

ウ 企業の法人番号

- 法人番号(13桁)を記入してください。
- 法人番号については、法人番号指定通知書または法人番号公表ウェブサイトで確認できます。
- 法人番号が指定されていない場合は、記入欄右の□に「レ」印を記入してください。

記入上の注意

- ・金額は万円単位で記入してください（万円未満を四捨五入してください）。
- ・「¥」記号は記入しないでください。
- ・「*」と記載されている箇所の記入は不要です。

2 経営組織及び資本金額

エ 経営組織

- ・あらかじめ印字されている内容が違う場合は二重線で消し、該当する番号を「○」で囲んでください。また、経営組織の内容は以下の表を参照してください。

1 会社	株式会社、有限会社、合名会社、合資会社、合同会社などをいいます。
2 会社以外の法人・団体	公益法人、一般財団法人、一般社団法人、特定非営利活動法人、法人格を有する法人・団体、法人格を有しない法人・団体及び外国の会社(※)などをいいます。 (※)「外国の会社」とは、外国で設立された法人の支店、営業所などで、商法の規定により、日本に事務所などを登記したものをいいます。なお、外国の資本が経営に参加している、いわゆる「外資系の会社」は「外国の会社」とはせず、「1 会社」となります。
3 個人経営	個人業主により経営されている企業をいいます。 なお、会社や法人・団体組織となっていない個人による共同経営の場合も含まれます。

オ 資本金額(又は出資金額)

- ・資本金額(株式会社、有限会社)又は出資金額(合資会社、合名会社、合同会社)が1万円未満の場合は四捨五入して記入してください(5千円以上1万円未満の場合は「1」万円、5千円未満の場合は「0」万円と記入してください)。

3 企業の事業形態

カ 企業の事業形態

- ・「企業の事業形態」については、次の区分により、貴企業があてはまる番号を一つ「○」で囲んでください。複数の区分にあてはまる場合には、一番売上高の多い区分を「○」で囲んでください。

1 レコード制作業	主としてレコード(音楽CDなどの音楽ソフト)の企画・制作を行う企業
2 音楽出版業務	主として著作権の管理と開発などの音楽出版業務を行う企業
3 ラジオ番組制作業	主としてラジオの番組やCMの企画・構成・制作を行う企業
4 その他	CMやゲームのBGMなど、上記1~3以外の音声情報制作業務を行う企業

4 消費税の税込み記入・税抜き記入の別

キ 消費税の税込み・税抜きの別

- ・5以降はできる限り「税込み」で記入してください。ただし税込みで記入できない場合は、「税抜き」で記入してください。
- ・「税込み」か「税抜き」かについて、選択した記入方法を「○」で囲んでください。

5 年間売上高等

2019年1月1日から12月31日までの1年間又は最も近い決算日前1年間について記入してください。

ク 企業全体の年間売上高	千億	百億	十億	億	千万	百万	十万	万円											
	上記「企業全体の年間売上高」のうち、「音声情報制作業務」の年間売上高																		
ケ 音声情報制作業務の年間売上高	音声情報制作業務の年間売上高							うち国内向け											
	千億	百億	十億	億	千万	百万	十万	万円	千億	百億	十億	億	千万	百万	十万	万円			
コ 「音声情報制作業務」の年間売上高の業務種類別割合	「うち洋楽」の割合については、「音声情報制作業務の年間売上高」を100としてその割合を記入してください。																		
	音楽ソフト制作業務(レコード制作会社・音楽出版会社)				ラジオ番組制作業務				合計										
	レコード販売収入	著作権使用料収入	著作隣接権収入	その他	ラジオ番組制作収入	タイム・スポット制作収入	受託制作収入	その他											
年間売上高	%			%			%			%			100%						
うち洋楽	%			%			%			%									
サ レコード販売収入の販売枚数規模別割合	「レコード販売収入」に占める割合を記入してください。																		
	1万枚未満			1万枚以上5万枚未満			5万枚以上10万枚未満			10万枚以上30万枚未満			30万枚以上50万枚未満			50万枚以上			合計
	レコード販売収入	%			%			%			%			%			100%		

シ 業務種類別の音楽配信収入の割合	レコード販売収入に占める音楽配信収入の割合		著作権使用料収入及び著作隣接権収入に占める音楽配信収入の割合		音楽ソフト制作業務に係る音楽ソフト年間生産数量				保有する総音源数	
	%		%		音源数		タイトル数		2019年12月31日現在で保有している音源の総数を記入してください。	
					生産数量		曲		本	
	%		%		曲		本		曲	
ソ 制作したラジオ番組の年間総時間	制作したラジオ番組の年間総時間									
	報道	教育	教養	娯楽	広告	その他				
時間数	時間	時間	時間	時間	時間	時間	時間	時間	時間	時間

コ 6～7ページ参照

サ 7ページ参照

シ 7ページ参照

ス 7ページ参照

セ 7ページ参照

ソ 7ページ参照

記入上の注意

- ・金額は万円単位で記入してください（万円未満を四捨五入してください）。
- ・「¥」記号は記入しないでください。
- ・「*」と記載されている箇所の記入は不要です。

5 年間売上高等

ク 企業全体の年間売上高

- ・貴企業が2019年1月1日から12月31日までの1年間に得たすべての売上高、すなわち、利益や所得ではなく経費を差し引く前の売上高を記入してください。なお、この期間での記入ができない等やむを得ない場合については、最も近い決算日前の1年間について記入してください。また、営業期間が1年に満たない場合であっても記入してください。
- ・営業として行っていない資産運用や資産売却による収入（いわゆる営業外収入）は含めないでください。
- ・「企業全体の年間売上高」に「音声情報制作業務」以外の売上がある場合、「企業全体の年間売上高」と「音声情報制作業務の年間売上高」は一致しません。

ケ 「企業全体の年間売上高」のうち「音声情報制作業務」の年間売上高

- ・企業全体の年間売上高のうち、下記のこの調査の「対象となる業務」（日本標準産業分類小分類412－音声情報制作に属する業務）の売上高を記入し、国内向けを内数として「うち国内向け」に記入してください。音楽ソフトの権利収入も売上高に含みます。
- ・個人事業主を含みます。

【対象となる業務】

レコード（音楽CD、音楽テープなどのこと）の企画・制作、レコード以外の音声情報（映画用、テレビ番組用、CM用、ゲームミュージック、音声アナウンスなど）の企画・制作、ラジオ番組の制作業務が調査の対象となります。

調査対象例

- ・邦楽、洋楽のCDの企画・制作業務
- ・音楽出版業務
- ・ラジオ番組制作業務
- ・CM、ゲームなどのBGM、音声を制作する業務
- ・乗り物などの音声アナウンス、着メロ、店内BGMの制作業務

【対象とならない業務】

- ・小売用CDのプレスなど、他社からCD等の製造を受託する業務
- ・CDの小売業務
- ・レンタルCDを営む業務
- ・ラジオ放送を行う業務
- ・演奏者（歌手、楽器奏者、オーケストラなど、歌・演奏を生業としているもの。ただし、事務所をかまえるなどしてCDの発売や、BGMの提供を行っている場合は、本調査の対象となります。）

など

コ 「音声情報制作業務」の年間売上高の業務種類別割合

- 5の「音声情報制作業務の年間売上高」で記入した年間売上高について、その内訳を以下の表を参考に音楽ソフト制作業務及びラジオ番組制作業務の区分ごとに業務種類別の売上割合を整数で記入してください。売上割合の合計は、音楽ソフト制作業務とラジオ番組制作業務の合計で100%となるようにしてください。なお、合計が100%にならない時は、割合の最も大きい項目で調整してください。

業務種類区分		内容例示
音楽ソフト制作業務(レコード制作会社・音楽出版会社)	レコード販売収入	CDなどの音楽ソフトを販売して得た収入。インターネットや携帯電話への配信による収入も含まれます。
	うち洋楽	洋楽CDなどの音楽ソフトを販売して得た収入 ※「洋楽」とは、原盤を海外法人が制作した楽曲すべてをいいます。日本のレコード制作会社で海外法人が制作した原盤を基に日本国内で音楽CDを生産・販売して得た収入は、「うち洋楽」に含めてください。
	著作権使用料収入	著作者(作詞家・作曲家)等と楽曲ごとに著作権の管理に関する契約を結び、契約した楽曲について著作権管理事業者から受け取った収入 ※共同出版の場合は、他社への分配を除きます。
	うち洋楽	著作権使用料収入のうち、外国の音楽出版社と契約を結び、契約した楽曲に係る著作権管理事業者から受け取った収入
	著作隣接権収入	原盤使用料、放送二次使用料・複製使用料、貸与使用料、私的録音・録画補償金等から得る収入。 ※音楽配信を営む企業に原盤を提供した場合の収入は、ここへ含めてください。
	うち洋楽	著作隣接権収入のうち、洋楽による収入
	その他	上記以外の音楽ソフト制作業務から得る収入。BGM、音声、アナウンスなどによる収入は、こちらに含めてください。
	うち洋楽	その他の収入のうち、洋楽による収入
ラジオ番組制作業務	ラジオ番組制作収入	ラジオ番組を制作して得た収入
	タイム・スポット制作収入	タイム・スポットを制作して得た収入
	受託制作収入	他企業から委託を受けたラジオ番組(タイム・スポットを含む。)制作業務による収入
	その他	上記以外のラジオ番組制作で得た収入

コ 「音声情報制作業務」の年間売上高の業務種類別割合(つづき)

5の「音声情報制作業務の年間売上高」及び「音声情報制作業務」の年間売上高の業務種類別割合」の記入例:

企業売上高が1億2千万円であった。内訳は国内向けのCD売上高が9千4百万円、うち洋楽のCD売上高が3千万円、ラジオ用のスポットCM売上高が2千万円、音声情報制作業務以外が6百万円であった場合。

上記「企業全体の年間売上高」のうち、「音声情報制作業務」の年間売上高													
音声情報制作業務の年間売上高							うち国内向け						
千	百	十	億	千	百	万	千	百	十	億	千	百	万
1	1	4	0	0			1	1	4	0	0		
「音声情報制作業務」の年間売上高の業務種類別割合 「うち洋楽」の割合については、「音声情報制作業務の年間売上高」を100としてその割合を記入してください。													
音楽ソフト制作業務(レコード制作会社・音楽出版会社)							ラジオ番組制作業務					合計	
レコード販売収入	著作権使用料収入	著作権隣接権収入	その他	ラジオ番組制作収入	タイム・スポット制作収入	受託制作収入	その他						
82%	%	%	%	%	18%	%	%			100%			
年間売上高							うち洋楽						
9400/11400×100=82.45...							2000/11400×100=17.54...						
3000/11400×100=26.31...													

サ レコード販売収入の販売枚数規模別割合

5の「音声情報制作業務」の年間売上高の業務種類別割合」の「レコード販売収入」について、販売枚数規模別区分ごとの割合を整数で記入してください。

シ 業務種類別の音楽配信収入の割合

- 音楽配信(インターネットを通じて楽曲を配信するもの)による収入について、
 - 5の「音声情報制作業務」の年間売上高の業務種類別割合」の「レコード販売収入」のうち、音楽配信による収入の割合
 - 5の「音声情報制作業務」の年間売上高の業務種類別割合」の「著作権使用料収入」及び「著作権隣接権収入」のうち、音楽配信による収入の割合を、それぞれ整数で記入してください。
- ただし、自社ホームページでのCD等の通信販売は、「音楽配信収入」には含めないでください。

ス 音楽ソフト制作業務に係る音楽ソフト年間生産数量

- 5の「音声情報制作業務」の年間売上高の業務種類別割合」の「音楽ソフト制作業務」に係る年間生産数量を音源、タイトル別に記入してください。

セ 保有する総音源数

- 2019年12月31日現在で保有している音源の総数を記入してください(形態は問わず、著作権を持っていれば過去のものも含まれます)。

ソ 制作したラジオ番組の年間総時間

- 制作したラジオ番組の年間総時間数を、以下の区分ごとに記入してください。

業務種類区分	内容例示
報道	報道を目的として行う放送番組(例:ニュース番組、天気・交通情報など)
教育	学校教育又は社会教育のための放送番組
教養	教育番組以外の放送番組であって、国民の一般的教養の向上を直接の目的とする放送番組
娯楽	娯楽を目的として行う放送番組(例:音楽番組、スポーツ中継、バラエティ・お笑い番組、ラジオドラマなど)
広告	タイム・スポットなどの広告放送
その他	上記以外の放送や放送番組

6 年間営業用固定資産取得額

企業全体の過去1年間における営業用固定資産取得額^{注1}

		千億	百億	十億	億	千万	百万	十万	万円
有形固定資産	機械・設備・装置	情報通信機器 ^{注2}							
		その他							
	土地								
	建物・その他の有形固定資産								
無形固定資産									
合計 ^{注3}									

注1:耐用年数1年以上で取得価額が10万円以上の固定資産の取得額(購入手数料を含む。)を記入してください。

注2:「情報通信機器」とは、有線通信機器、無線通信機器、放送装置、自動交換装置、ファクシミリ、電子計算機、端末機器、補助装置、電子計算機附属機器、パソコン、CAD/CAM(コンピュータ設計・製造システム)などをいいます。

注3:過去1年間に営業用固定資産の取得額がない場合は、合計欄に「0」を記入してください。

記入上の注意

- 金額は万円単位で記入してください
- 「¥」記号は記入しないでください。(万円未満を四捨五入してください)。

6 年間営業用固定資産取得額

企業全体の過去1年間における営業用固定資産取得額

- 2019年1月1日から12月31日までの1年間に新たに取得した、取得価格が10万円以上の固定資産(新品、中古品、建物など)の取得額について、購入手数料を含めて記入してください。
- 過去1年間に営業用固定資産の取得額がなかった場合は、合計欄に「0」を記入してください。
- 当該1年間での記入ができない等やむを得ない場合については、最も近い決算日前の1年間の固定資産取得額を記入してください。
- 年間営業用固定資産取得額は、次の区分に従って記入してください。

資産区分		資産例示
有形固定資産	機械・設備・装置	情報通信機器 耐用年数1年以上の有線通信機器、無線通信機器、放送装置、自動交換装置、ファクシミリ、電子計算機、端末機器、補助装置、電子計算機附属機器、パソコン、CAD/CAM(コンピュータ設計・製造システム)の購入に要した金額
		その他 耐用年数1年以上の工具器具、機械、設備、装置、備品など(情報通信機器を除く)の購入に要した金額
	土地 土地購入に要した金額 既存の土地を整備することに要した金額	
	建物・その他の有形固定資産 建物の購入、改築・改装に要した金額 給・排水及びガス設備、冷暖房用設備などの建物付属設備の購入に要した金額 その他取得した有形固定資産の購入に要した金額など	
無形固定資産		物的な存在形態を持たない固定資産(法的権利又は経済的権利)の購入に要した金額 例:借地権、ソフトウェア、特許権、商標権、実用新案権、意匠権、電話加入権、営業権など

次ページ以降にも記載があります。

7 従業者数

2020年6月1日現在又はこれに最も近い給与締切日現在で記入してください。

(1) 企業全体の従業者数			(2) 「音声情報制作業務」の事業従事者数	
	男	女	事業従事者数	
① 個人業主（個人経営の事業主）及び無給の家族従業者	人	人	(別経営の企業に派遣している人を除き、別経営の企業から派遣されている人を含みます。)	人
② 有給役員	人	人		
③ 正社員・正職員としている人	人	人		
	④ ③以外の人（パート・アルバイトなど） (就業時間換算雇用者数 ^{注2})	人		
⑤ 臨時雇用者 ^{注3} （常用雇用者以外の雇用者）	人	人		
総計（①～⑤の合計）	人	人		
（うち 別経営の企業に派遣している人）	(人)	(人)		
総計のほかに別経営の企業から派遣されている人	人	人		

注1: 「常用雇用者」とは、雇用契約期間の定めがない労働者又は雇用契約期間が1か月以上の労働者をいい、また、「⑤以外の人（パート・アルバイトなど）」は、「正社員・正職員としている人」以外の労働者をいいます。
 注2: 「④ ③以外の人（パート・アルバイトなど）」の「就業時間換算雇用者数」は、「④ ③以外の人（パート・アルバイトなど）」に記入した従業者全員の総労働時間（1週間分）÷ 貴企業の所定労働時間（1週間分）によって算出してください。
 注3: 「⑤ 臨時雇用者」とは、「常用雇用者」以外の雇用者で、1か月未満の期間を定めて雇用されている人又は日々雇用されている人をいいます。

7 従業者数

チ (1) 企業全体の従業者数

雇用形態区分	内容例示
① 個人業主（個人経営の事業主）及び無給の家族従業者	個人業主とは、個人経営の事業主で、実際に貴企業の業務に従事している人を行い、無給の家族従業者とは、個人業主の家族で、賃金、給与を受けずに貴企業の業務に常時従事している人をいいます。 ※家族であっても、実際に雇用者並みの賃金・給与を受けて働いている人は「常用雇用者」に記入してください。 ※「② 経営組織及び資本金額」で「3 個人経営」を選択した場合のみ記入してください。
② 有給役員	「② 経営組織及び資本金額」で「3 個人経営」以外を選択した場合で、経営組織が「1 会社」、「2 会社以外の法人・団体」の役員（常勤・非常勤を問わない）で報酬・給与の支払いを受けている人をいいます。 ※取締役や理事などであっても、事務職員、労務職員を兼ねて一定の職務に就き一般職員と同じ給与規則によって給与を受けている人は「常用雇用者」に含めてください。また、ただ単に名目的で業務に従事せず、かつ、役員報酬を受けていない人は除いてください。
常用雇用者	一定の期間を定めずに雇用されている労働者、又は1か月以上の期間を定めて雇用されている労働者をいいます。
③ 正社員・正職員としている人	常用雇用者のうち、貴企業で正社員・正職員として処遇している人をいいます。一般的には、雇用契約期間に定めがなく（定年制を含む）、貴企業で定められている1週間の所定労働時間で働いている人が該当します。
④ ③以外の人（パート・アルバイトなど） (就業時間換算雇用者数)	常用雇用者のうち、「⑤ 正社員・正職員としている人」以外の労働者をいいます。 「④ ③以外の人（パート・アルバイトなど）」に記入した従業者全員の総労働時間（1週間分）を貴企業の所定労働時間（1週間分）で除して算出した人数（※）「(就業時間換算雇用者数)」記入例を参照）を記入してください。
⑤ 臨時雇用者（常用雇用者以外の雇用者）	「常用雇用者」以外の雇用者で、1か月未満の期間を定めて雇用されている人、又は日々雇用されている人をいいます。

チ (1) 企業全体の従業者数(つづき)

雇用形態区分(つづき)	内容例示
総計 (①～⑤の合計)	「①個人業主」から「⑤臨時雇用者」に記入した従業者の合計を記入してください。
(うち 別経営の企業に 派遣している人)	「①個人業主」から「⑤臨時雇用者」に記入した人のうち、他の会社など別経営の企業へ出向・派遣している人又は下請けとして他の会社など別経営の企業で働いている人をいいます。
総計のほかに別経営の 企業から 派遣されている人	「①個人業主」から「⑤臨時雇用者」に記入した人のほかに、他の会社など別経営の企業から出向・派遣されている人又は下請けとして他の会社など別経営の企業からきて働いている人をいいます。

- ・2020年6月1日現在又はこれに最も近い給与締切日現在で、貴企業全体の従業者数について、各区分の該当する欄に記入してください。各区分の例示については左の表を参照してください。
- ・長期欠勤者で、1か月以上いかなる給与も受けていなかった人は、在籍者であっても含めないでください。
- ・貴企業において個人と契約を結んで雇用している場合は「①個人業主」に含めるのではなく、「②有給役員」以降の該当する区分に含めて記入してください(別経営の企業から派遣されて当該企業に在籍している個人業主の人も含められません)。
- ・「派遣している人」、「派遣されている人」とは、労働者派遣法にいう派遣労働者のほか、在籍出向など出向元に籍があり出向元から給与を受けながら出向先の企業で働いている人及び下請け(請負業務)の仕事として働いている人をいいます。なお、転籍出向者は含めないでください。

(※)「(就業時間換算雇用者数)」記入例

例えば、以下のような場合の「(就業時間換算雇用者数)」は、(1)、(2)のとおり算出してください。

- ・1週間で24時間勤務のアルバイト(「④③以外の人(パート・アルバイトなど)」に該当する労働者)が4人従事している
- ・当該企業の1週間あたりの所定労働時間が40時間

$$\begin{aligned}
 (1) & \text{「④③以外の人(パート・アルバイトなど)」の総労働時間(1週間分)} \div \text{貴企業の所定労働時間(1週間分)} \\
 & = 24(\text{時間}) \times 4(\text{人}) \div 40(\text{時間}) \\
 & = 2.4(\text{人})
 \end{aligned}$$

(2)「(就業時間換算雇用者数)」には小数点以下を四捨五入して「2」と整数で記入してください。

ツ (2) 「音声情報制作業務」の事業従事者数

- ・貴企業の事業従事者数(※)のうち「音声情報制作業務」に携わる人数を記入してください。

「音声情報制作業務」の事業従事者の例

管理業務(総務、人事、経理など)、「音声情報制作業務」を担当する有給役員、音声情報制作業務の企画・制作・広報・宣伝に従事する人 など

- ・以下の人は、「音声情報制作業務」の事業従事者に含めないでください。

主に「音声情報制作業務」以外の業務に従事している人(例えば、「音声情報制作業務」以外の業務の就業時間数が、「音声情報制作業務」の就業時間より多い場合)。

(※)事業従事者数

$$= \text{「(1)企業全体の従業者数の総計(①～⑤の合計)」} - \text{「別経営の企業に派遣している人」} + \text{「別経営の企業から派遣されている人」}$$

MEMO

A series of horizontal dashed lines for writing.

コールセンターの ご案内

調査票の記入についてご不明な点などありましたら、下記実施事務局までお問い合わせください。

経済構造実態調査 実施事務局

【電話番号】☎0120-800-636 (通話料無料)

(IP電話などフリーダイヤルに接続できない場合 03-6630-5960 (有料))

※おかけ間違いのないようお願いいたします。

【受付時間】平日(土・日・祝日・年末年始を除く)9:00~18:00

【ホームページ】<https://www.kkj-st.go.jp>

